

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174200723		
法人名	社会福祉法人 神流福祉会		
事業所名	グループホームわたど		
所在地	埼玉県児玉郡神川町大字渡瀬1024-3		
自己評価作成日	令和4年 11月 10日	評価結果市町村受理日	令和5年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	令和5年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>その人らしい生活を送って頂けるための家です。家庭的な雰囲気の中で、自由に、楽しく、ゆったり、第二の我が家として安全、安心、くつろぎを提供致します。 また、コロナ禍での面会等において、建物の特性を活かし、ご本人の表情等、家族が確認出来る様、工夫をしております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自由に、楽しく、ゆったり」の理念のもと、起きる時間や寝る時間、食事時間もそれぞれが自由に行い、その人らしく自由に安心して暮らせる支援に取り組まれている。 ・運営推進会議では、参加メンバーが集合しての会議開催に替え、事業所の実情を伝えて意見を求め、サービスの向上に向けた取り組みが行われている。 ・目標達成計画については、職員会議の中で災害時に対する意識向上に向けた研修が継続して行われ、避難場所の再確認、夜間想定はシミュレーションとして訓練が行われていることから、目標が達成されている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自由に、楽しく、ゆっくりを理念に掲げ、職員と共に家庭的な雰囲気の中で過ごせるよう支援しております。	職員からの押し付けではなく、入居者個々のペースを大切に、寝たい時に寝て、食べたい時に食べるなど時間制限をせず、レクリエーションなども強要することなく自由に参加していただき、「自由に、楽しく、ゆっくり」の理念が日々のケアに実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域及び近隣のボランティアの受け入れ、お祭り公園散歩・ドライブ・外気浴等を行っていましたが、新型コロナウイルス感染防止策として、一部自粛をしております。	従来はボランティアや地域活動への参加など積極的に行われていたが、現在は散歩時に近隣の方と挨拶を交わすなど交流をされている。近くの小学校から継続して七夕の短冊をいただくなど地域との繋がりを大切にされた支援に努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域のコミュニティセンターにて、年3回のサテライトデイサービスを開催していましたが、中止となりました。 ・地元小学校の七夕は、入所者の作成した短冊を飾っていただきました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染防止の為、運営推進は中止しておりますが、わたくしども、新型コロナウイルス感染対策に伴うお願い(文章)等により気楽に施設にご連絡して頂ける様にいたしました。	現在は文書による方式により、民生委員や行政担当者とは電話を通して近況報告を行い、意見やアドバイスをいただいている。また、「わたくしども」への家族からの要望なども反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・福祉担当者と連携を図り情報交換等を行っております。 ・児玉圏域ケアマネジャー連絡会及び神川町ケアマネジャー連絡会議に出席し横のつながりにも力を入れております。	行政の担当者とは、電話や窓口に出向いての申請や事業継続計画の作成について相談をされたり、他の事業所の情報など提供をいただいている。また、地域包括支援センターとは困難事例について相談するなど協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・日中は玄関の施錠は行っておりませんが、夜間帯のみ防犯の為、施錠をしております。 ・身体拘束廃止委員会を適宜開催し、身体拘束廃止に向けて議論を重ねております。	定期的に身体拘束廃止会議と事故対策会議を開催し、日常業務の中で発生した事への検証が行われている。知らず知らずに行っている事例を取り上げて勉強会が行われ、職員は身体拘束をしないケアの方針を正しく理解されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて虐待をテーマに研修等を行っております。また、日々のミーティングでも繰り返し指導を行っており当事業所では虐待は行われていない事を自負しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・入所者様の家族様には、口頭の説明をしております。 ・施設内にパンフレットを掲示し面会等にお越し頂いた方に紹介しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が主に対応しておりますが、ケアマネにも必要に応じ対応させ、家族様、入所者様の疑問、不安等について解りやすく説明をし、納得ご理解を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時ご相談頂ける様、管理者の携帯電話番号をご家族に知らせ、24時間体制でご家族様の要望の受付をしております。	定期的に「わたくし便り」で近況報告を行い、要望などが聴き取られ、必要時には自宅に伺い相談事に応じられている。入居者、家族とは「かかわり方の距離感」を確認し、個々に合わせた対応に努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度全体会議を開催し職員の提案、意見を取り入れ、処遇に反映させております。また、意見箱を設け提案を募っております。	管理者が現場に入り、職員との対話を通して意見や提案などを聴き取られている。職員同士で情報を共有し、見えないところをお互いがカバーし合うなどの協力体制が整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要望・意見を積極的に取り入れ職場環境条件の整備に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加をさせると共に、全体会議及びミーティング等でもテキストなどを使用し、自己啓発に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設・居宅介護支援事業所等に出向き交流を進めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えを傾聴し、否定的な言動をせず、利用者本位の支援を心掛けております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様から話を伺い、要望に沿った援助が出来る様検討し、些細な事でも気軽に話して頂ける様努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所者様の出来る事、出来ない事を把握し、手や口を出さない様にして見守りを行い、必要に応じ不安のある時には、入所者様と一緒に考え行動をするように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・出来る事(自身の洗濯物をたたむ、自室のゴミを集めて頂く)をしていただいております。 ・体操、歌、談話等入所者の状況に応じて職員と楽しみを共有しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・毎月のお便りを担当者が書き、本人のわたどでの様子(健康状態、心理状態、行事参加等)を伝えております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方への面会の声掛け、本人の友人、知人の面会の受け入れ、家族に了承を得ている入所者様については、電話での会話等も支援しておりましたが、電話での対応のみ継続しております。	面会は窓越しで行われ、電話の取次ぎなど支援されている。携帯電話で昔の仕事仲間と連絡を取り合っ来所される方がおられるなど、馴染みの関係の継続に努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者様の出来る事、出来ない事を把握し、手や口を出さない様にして見守りを行い、必要に応じ不安のある時には、入所者様と一緒に考え行動をし、支援をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関連施設への移動入所者に対し面会を行っております。また、長期入院などにより退所された家族からの電話相談等にも対応、助言必要に応じ面会等を行っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のペースで過ごせる様心掛けております。声掛け、見守り等で安心、安全、安定した生活支援を行っております。	おとなしい、控えめな入居者とは1対1で話し合い、「どうですか」など声かけしたり、機嫌が悪い入居者には、「○○したい？」など選択肢を入れた話しかけに工夫をしながら思いや意向の把握に努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族様に今までの暮らし、生活歴などを支障のない範囲で聞き、本人様の意向、嗜好を出来るだけ取り入れ、その人らしい生活が送れるような支援に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日のバイタルチェックで体調の管理、顔色、表情等で状態観察をしております。 ・ご自身で出来る事は見守りし自立支援につなげております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケース会議を開催し、入所者様の状態把握、評価、維持、変更に対応しております。	職員全員でのケース会議でモニタリングを行い、意見を集約し、身体的変化を確認しながらその都度の変更にも繋げられている。絵に描いた餅にならないよう、実現可能なシンプルで分かりやすい内容で介護計画を作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は毎日記入し、情報の共有を図っております。個々の処遇の工夫等などは、ミーティング等で適宜話し合っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様との外出、外食、ドライブ等を楽しんで頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・外出時、散歩の時は、地域の皆様との会話を楽しんで頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月一回の往診があり、急変時、緊急時等入所者の受け入れ、治療をして頂いております。また、主治医の指示により家族と協議し家族の協力の下、他医療機関への受診の支援を行っております。	日常的は往診や相談などの対応のもと健康管理が行われている。専門医受診時は家族対応を基本とするが、受診に管理者が同行して日頃の状況を医師に伝え、適切な医療が受けられるよう支援に努められている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入所者様の体調不良時は、主治医に相談し、必要に応じ処置、受診をしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と情報交換を行うと共に家族様に同意を得て、病院に面会に行き、看護師、関係者から情報を得ております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に本人の状況、現状等を踏まえながら話し合い、入所者様になるべく痛み、不快感がなく過ごせる様援助しております。	看取りは行われていないものの、本人や家族の希望を含め、事業所としてできるギリギリまでの対応がなされている。食事摂取が困難になるなどを目安に、本人、家族の意向を確認したうえで医療機関や次の施設に繋がられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・毎日の状態観察の実施 ・急変時の対応など、マニュアル等により対応しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練・消火訓練を実施しております。	ハザードマップの検証が行われ、「避難確保計画」を作成されている。災害別マニュアルも整備され、「いざという時にどうするのか」を常にシミュレーションするよう指導を行い、防災意識向上を目的とした研修も実施されている。	災害対策には十分に組み込まれております。災害はいつ起こるか分からないことから、いざという時に備え、災害対策の継続した取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者様の人権、人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねない様、職員一同言動に注意しております。	「自由」を基本に、「外に出たい」は当たり前のこととして捉え、人格を尊重した対応に努められている。その方に合った言葉遣いや話しかたを研修でも指導され、生活歴やプライドにも配慮した声かけが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定、希望の表出がし易い様な環境、雰囲気作りを職員一同心掛け支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自分の希望、要望に添った過ごし方で1日を自由に過ごせる様に支援出来る様日々努力をしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力を得てご本人の好みの洋服、装飾品などを身に付けて頂ける様支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者様の嗜好に合わせたメニューにより食事を楽しんで頂いております。	メニュー作りから食材の準備、調理など全て職員が行い、手作りの家庭的な食事が提供されている。食事形態や好みなどにも配慮がなされ、「食べ残し」のチェックなどからその後のメニューに反映されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・起床時、毎食、10時、3時、入浴後には、水分補給をしております。 ・粥、刻み、ミキサー食とその方に合った食事形態で食事を提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の歯磨き(一部介助含む)の実施 ・夕食後の入れ歯洗浄剤による清潔保持 ・協力医療機関による口腔衛生の指導、助言		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・適宜トイレ誘導を行っております。 ・各人の排泄パターンを把握し失禁のない様に努めております。	重度化して立位が取れない入居者はオムツでの対応としているが、職員二人対応でトイレでの排泄を目指したり、こまめな声かけでリハビリパンツから布下着に変更するなど、自立に向けた排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日の排便チェックを実施しております。 ・水分補給に工夫をし、牛乳、野菜ジュース等を取って頂いております。 ・体操、散歩、歩行等適度な運動をして頂いております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・曜日、時間帯予め決めてはおりますが、本人の要望、その日の体調により曜日等変更し入浴を楽しんで頂いております。	病状により週2回の入居者がおられるが、基本は週3回入浴ができるよう支援されている。重度化の入居者には職員二人介助で浴槽に浸かっていたり、希望に応じて同性介助で対応され、健康チェックや皮膚状態の観察が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のペースに合った過ごし方をし、のんびり、自由にして頂いております。また、職員との談話等で、安心して頂くよう心掛けております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の目的、用法、用量を理解し内服を支援しております。症状の変化を見逃さず、変化があった時には主治医に報告、相談をし、適切な対処を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の趣味、嗜好を取り入れたレク等を積極的に取り入れ、気分転換をして頂ける様支援をしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染防止の為、不要不急の外出を自粛しております。	以前は初詣、花見や外食、買い物等外出できるよう支援されていたが、コロナ禍により現在は制限されている。近隣への散歩などを中心に数こそ少ないがドライブなどにも出かけられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じた金銭管理で対応しております。(家族様に承諾を頂き当方で立替え、請求書にて家族様にお支払い頂いております。)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望、家族様の承諾のもと自宅、友人知人宅への電話。手紙等対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・草花等を飾り環境作りを行っております。 ・室内の温度、湿度、明るさ等適宜調整をし入所者様に快適に過ごして頂ける様配慮をしております。	動きに合わせて余分な物を置かないように配慮がなされ、入居者は自由にユニット間を歩き来されている。ユニットごとに照明を変え、それぞれのイメージに変化を付けて雰囲気作りが工夫し、アルコール消毒や清掃も含めて衛生管理を充実されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファ等置き自由に過ごせる空間の提供に心掛けております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	バッグ、時計、たんすなど今までご自宅で使用されていた思い出のある品を持参して頂き、本人が安心して生活を送れるような工夫をしております。	家具や道具は自由に持ち込んでいただき、居室で新聞を読んだり、日向ぼっこ、携帯電話で会話を楽しまれるなどそれぞれが自由に過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面を考慮しながら、自身で出来る事はして頂き、自然体で過ごせる様努めております。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホームわたど

目標達成計画

作成日: 令和 5年 1月 20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時に対応出来る体制作りの強化・継続。	職員の防災意識の向上と、入居者の安全確保を目的とした災害等の訓練・研修の実施。	・職員の災害時に関する意識向上を目的とした研修の継続。 ・夜間を想定した訓練(シミュレーション)の継続実施。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。